

2019（平成31）年度事業計画

一般社団法人日本身体障がい者水泳連盟

基本方針

2019年度は、「一般社団法人日本身体障がい者水泳連盟」として活動を開始してから7年目を迎える。当連盟を取り巻く環境は、2013年9月に2020年東京オリンピック競技大会及び東京パラリンピック競技大会の開催が決定されて以降、他のパラリンピック競技と同様に大きな変化が続いている。2016年度にはリオパラリンピック競技大会が開催され、その年の10月3日には、スポーツ庁から「競技力強化のための今後の支援方針（鈴木プラン）—2020年以降を見通した強力で持続可能な支援体制の構築—」が示され、東京2020オリンピック競技大会及びパラリンピック競技大会へ向けて2017年度から2018年度は「活躍基盤確立期」、2019年度から2020年度は「ラストスパート期」と位置付けられた。

このプランに基づいて、様々な支援策が展開されると同時に求められることも多く、業務量も増え、オリンピック組織のような盤石の基盤を持たない当連盟には、厳しい状況が続いている。

しかしながら、東京2020パラリンピック競技大会（以下「東京2020」）に向けて選手の強化や大会運営への準備など着実に取り組むことは、これ以降のアスリート環境を良くし、真の共生社会の実現に向けてパラリンピック競技のさらなる発展という点からも、当連盟に課せられた重大な使命と考え、対応して行かなければならない。

本年度も定款の目的に定めるパラリンピック活動を始めとする事業とともに、2018年に策定したビジョンと行動計画に基づいて事業を進める。特に、多くの会員が楽しみにしている第36回日本パラ水泳選手権大会を千葉国際水泳場で開催するとともに、第37回選手権大会の準備を進める。9月に開催を予定するジャパンパラ水泳競技大会では、2018年度に引き続き海外選手の参加を得て、東京2020対策を行う。また、地域連盟の主催大会を支援する。これら大会に向けて、競技役員研修などを行うほか、指導者制度の再構築をさらに進める。

本年度は、世界パラ水泳連盟主催の世界選手権が開催されるほか、各地でワールドシリーズも開催されることから、これらにも積極的な参加を行っていく。

東京2020に向けていよいよ7月から味の素ナショナルトレーニングセンターの拡充棟の運用が始まる。強化選手と育成選手も重点化を図り、選手強化体制の充実と持続可能な仕組みづくりに取り組む。これらの事業推進にあたっては、強化戦略プランを常にバージョンアップし、日本パラリンピック委員会の方針などとも連携を図っていく。

当連盟の特別委員会として 2015 年に「東京 2020 強化推進委員会」を設置し、活動を行っているが、2021 年以降のことも念頭において取り組みを進めていく。

一方、これらの実行にあたっては連盟の財務基盤や組織の充実が不可欠であり、日本財団パラリンピックサポートセンターの支援なども得ながら体制の強化や協賛企業の獲得に全力をあげ、2021 年以降も持続可能な組織として課題解決に精力的に取り組む。

<参考——2018 年度までの当連盟の経過>

2016 年度リオパラリンピック競技大会において、木村敬一選手を始めとする選手の活躍により銀メダル 2 個、銅メダル 3 個、合計 5 個のメダルを獲得した。しかしながら金メダルは獲得することができず、強豪国との差を改めて実感した。

これらを踏まえて、2017 年度・2018 年度と取り組みを進め、選手の発掘・育成・強化の仕組みを、より明確にすることを目標にパスウェイ（トップ選手に至る道筋）の構築、選手の発掘から育成に取り組む事業や J - S T A R 事業に取り組んだ。あわせて公認競技役員制度や指導者研修制度の再構築を行った。また、国立スポーツ科学センター・味の素ナショナルトレーニングセンター（以下「J I S S ・ N T C」）及び競技別強化拠点である立教大学を強化拠点クラスターとして、「まほろば健康パークスイムピア奈良」及び神戸を育成・発掘拠点クラスターとして機能の明確化を図り、物的・人的整備を図った。

2017 年度に行われたメキシコ世界選手権大会は、現地における大地震のため選手派遣を見送る決断を余儀なくされたが、2017 年度ドバイで開催されたアジアユースパラ大会では、水泳陣の活躍で、金メダルランキングで日本は 1 位となるなど、着実な成果を上げた。

2018 年度では、パンパシフィック大会でオーストラリア、アメリカについて 3 位となり成果を上げるとともにアジアパラゲームズの水泳部門では、金 18、銀 23、銅 22、合計 63 のメダルを獲得、日本金メダル獲得数の 40%を占める活躍をした。大会運営においては、2017 年に引き続きジャパンパラ水泳競技大会に海外の選手を 40 名招へいしたほか、競技役員養成にも力を入れ、国際レベル 2 の研修を行った。また、第 35 回日本パラ水泳選手権大会（以下「選手権大会」）と名称を変更して三重県において開催した。

これらの取り組みを円滑に進めるため、日本財団パラリンピックサポートセンター内の当連盟東京オフィスを拠点に協賛企業の獲得、ガバナンスの一層の構築に取り組んだほか、J I S S ・ N T C の拠点活用のため板橋事務所での活動を活発化させ、総務体制を強化した。さらには、連盟のビジョンに基づく行動計画を着実に取り組んだ。さらには、2017 年度のメキシコ遠征の教訓から危機管理基本規程やマニュアルの策定も行った。

個別事業計画

1. 競技会開催及び支援事業

- ・地域連盟主催の地域大会を支援する
- ・第36回日本パラ水泳選手権大会を千葉県において開催し、連盟フリーWi-Fiによる広報展開など魅力ある大会にするとともに、水泳競技を通してパラスポーツの振興と社会参加を促進する。
- ・第37回選手権大会を東日本大震災復興支援の一環として宮城県での開催準備を進める。
- ・横浜国際プールにおいて開催されるジャパンパラ水泳競技大会を、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会と共催するとともに、東京2020を見据えて大会運営体制構築を進める。また海外選手の招へいについて2018年度に引き続き実施する。
- ・パラ水泳春季記録会を東京2020日本代表選考戦として3日間の開催とし、世界パラ水泳連盟（WPS）公認大会として実施する。
- ・会員にジュニア層も増えてきたことから、ジュニアの参加できる大会を模索する
- ・知的障がい者水泳大会・ろう者水泳大会との連携を図るほか、「ゆるプル」など水泳水中運動事業等を実施する。
- ・引き続き大会の記録などを整理し、日本記録の公認やWebで記録が検索できる仕組みを運用する。

2. 競技力向上事業

- ・発掘からトップアスリートまでのパスウェイ構築を進め、身体トレーニングの一貫性を図るとともに、広く裾野を広げる。
- ・強化クラスター（新NTC）、育成発掘クラスター（奈良・神戸）において、医科学支援などを充実するとともに、強化指定選手等の日常練習環境の改善を支援する。
- ・持続ある競技力向上のため、科学支援やコーチング支援など大学連携やスイミング組織との連携を模索する。
- ・「選択と集中」のもと、強化・育成指定選手などの合宿や人間力を養う教育研修を実施する。
- ・日本代表選手等の海外大会派遣を行う（2019世界選手権、WPSワールドシリーズなど）。
- ・次世代選手の強化・育成方策を検討し2024年・2028年とメダル獲得を目指せる選手を育てる。
- ・J-STAR事業を進め、引き続き地域における関係機関との連携を進め、発掘育成キャンプを実施する。

- ・ W P S との情報連絡など、国際連絡調整事務を推進する。
- ・ 公益財団法人日本水泳連盟との関係強化をはじめ、障がい者の水泳競技の普及などのため障がい者他団体と設立した「日本障がい者水泳協会」を支援する。
- ・ その他競技力向上に関する事務を行う。

3. 研修会及び競技普及事業

- ・ 地域連盟主催の普及活動を支援し、会員増加への一助とする。
- ・ 指導者制度の検討を進め、基礎指導者からワールドクラスコーチやハイパフォーマンスディレクターへの道に至る指導者パスウェイの構築と指導教育組織の在り方を模索する。
- ・ 東京 2020 を踏まえ、新たな競技役員・指導者及び技術支援会員等人材の質的・量的確保を行うため、国際役員等を招へいし、実践研修会を実施する。
- ・ 国際審判員やクラス分け委員を養成するため、国内の制度構築や研修プログラムを充実するほか、国際パラリンピック委員会などの研修に派遣する。
- ・ 2018 改定の競技規則、クラス分けに対応できるよう役員の研鑽を図る。
- ・ 会員のドーピング防止やコンプライアンスなど競技上のルールを含め社会的に要請されている課題の研修などを機会あるごとに実施する。

4. 総務関係事業

- ・ 会員等登録管理事業を実施し、効率的な運用を図る。
- ・ 地域連盟の組織基盤充実のため活用できる資源などの調査を行う。
- ・ 連盟ビジョンと行動計画の点検と評価を行う。
- ・ 組織ガバナンスの一層の充実を図るとともに、連盟の歴史などをまとめる。
- ・ 2021 年以降の組織や事務体制の在り方を検討し、事務管理の改善を図り、連盟運営体制の強化を図る。
- ・ 連盟のブランディングを進めるほか、2020 年に向けてホームページなど広報事業を充実する。
- ・ 日本財団パラリンピックサポートセンター事業や経済界からの支援を得るほか、協賛企業・賛助会員などの獲得を推進し、持続ある体制基盤の充実を図る。